

院長のひとりごと2

テーマ「永年勤続表彰」

十一年前の平成十五年六月一日、福岡新水巻病院は開院しました。池友会第四番目の急性期病院の誕生でした。地鎮祭の時、本当に始まるんだなと身震いしたのを覚えています。設計会議も毎週あり、工事が始まってからは、地元住民の方への御挨拶と説明会に毎週四〇五日は水巻に来ていました。午前中は小文字病院で外来をし、昼に水巻に、午後は小文字病院に帰って回診、カテーテル等、人生の中で一番時間に追われ、忙しかったと思います。水巻町の青果市場跡地は、炭坑の後で大変地盤の悪い場所でしたから、地下四十メートルの岩盤にくい打ちが必要でした。十一年たって病院周囲はすでに二〇センチ地盤が下がりました。病院だけは浮いてますが。

私が三十年前に小文字病院に研修医で入った頃は、他の民間病院もそうだったように医師不足、看護師不足は極めて深刻な問題でした。まして忙しい池友会の病院で十年勤務するのは奇跡とまで言われていました。当時はまだ「生涯雇用」の企業が多かったのですが（今では死語ですね）、企業としての安定感（資金力）、満足度、勤務形態を含めた雇用条件等、多くの民間病院は色々問題を抱えていました。小文字病院での経験を糧に、福岡新水巻病院を運営してきたつもりです。特に職員の満足度を上げるために、やりがいのある仕事、達成感の高い仕事が増えるように努力しました。つまり重症の患者さんが多く来院し、その治療において成績が高いことです。診療の質の向上と共に、ある程度の至適な荷と責任を負ってもらうことだと考えます。

本日私は三十年永年勤続表彰を受けました。他にも二十五年、二十年、十五年、十年と総勢十八名でした。昨年は八十余名の表彰でしたが、今後さらに増え続けることを期待します。私は生涯雇用でしょうね。

平成二十六年六月二日 藤井茂

第十章

